

令和4年度

事業報告書

社会福祉法人 清琉会

# 社会福祉法人 清琉会

## 令和4年度 事業報告書 目次

|                       |     |
|-----------------------|-----|
| ● 総括                  | P1  |
| ● 法人動向                | P2  |
| ● 玉川グリーンホーム           | P5  |
| ○ 介護事業部               |     |
| ◆ 施設相談課（入所相談担当）       |     |
| ◆ 施設介護課（介護担当）         |     |
| ◇ 本館特養1係              |     |
| ◇ 本館特養2係              | P6  |
| ◇ 新館特養1係              |     |
| ◇ 新館特養2係              |     |
| ◇ ユニット特養1係            | P7  |
| ◇ ユニット特養2係            | P8  |
| ◆ 在宅介護課               |     |
| ◇ 居宅介護支援係             |     |
| ◇ 通所介護係               | P9  |
| ○ 総務部                 |     |
| ◆ 総務課                 |     |
| ◆ 栄養課                 | P10 |
| ◆ 医務課                 |     |
| ● 高松山グリーンホーム          | P11 |
| ● 愛甲グリーンホーム           | P12 |
| ● 小町山グリーンホーム          |     |
| ● 厚木市玉川・森の里地域包括支援センター | P13 |
| ● 地域貢献事業等             | P14 |
| ● 委員会活動               |     |
| ○ 育成委員会               |     |
| ○ 介護技術向上委員会           |     |
| ○ サービス向上委員会           | P15 |
| ○ 事故防止検討委員会           | P16 |
| ○ 拘束廃止・虐待予防実践委員会      |     |
| ○ ICT推進委員会            | P17 |
| ○ 環境衛生委員会             | P18 |
| ○ 防災対策委員会             | P19 |

介護人材の確保について厳しさが続く中、「根拠に基づく行動」、「業務の効率化から繋げるサービスの向上」を心掛けて取り組んで来ました。IT化、ITC化を進める中、法人決算においては伝票の記載から見直し、ケア記録システムや介護請求システムについては、現在使用しているものについても改善点を検討し、メーカー側と意見交換を行いました。次の報酬改定の際には大きなシステムの見直しなども予測されますので、令和4年度から5年度の中頃までには方向性を絞って行かなければなりません。

多くの分野でIT化は進んできてはいますが、気を付けなければならないのは、「自身を正確に理解しているか」です。システムにより作成される帳票類は、入力されたデータを基にそれなりの形に仕上がっています。仮に本来反映すべき条項が抜けてしまっていたとしても、形としてはそれなりのもので出来上がってしまいますので、示された数字や状況が正しい内容かどうかを、扱う者が的確に判断しなければなりません。システムによっては入力時のエラーまで判断するなど進化もしていますが、やはり最後のセーフティネットとなるのは「人」であり、私達自らがその重要性を理解して自身の成長に取り組んで来ました。

成長を図るうえで研修なども当然実施されるのですが、今年度介護保険制度（介護サービス情報の公表）においては、非常に多くの研修が義務化されておりその対応に苦慮したのも正直な所です。研修により自身の成長、サービスの向上を図る事は勿論大切であり必要であります。実施時期や状況、そもそも当該研修がどのような事を目指して実施されるかなどが明確でないと、研修を開催する事自体が目的にすり替わってしまう事も危惧されます。「介護サービス情報の公表制度」自体が、本来の目的である「利用者のサービス選択の基となる」事については全く機能していない現状では、この制度に期待するのは心許なく、自分達で目的意識まで高めて行くしかありません。

各サービス、各事業所において目標とした稼働率は達成出来なかった事が多くありました。玉川グリーンホームにおいては、新型コロナウイルス感染症によるクラスターが複数回発生し、在宅サービスを含め想定を超える大きな影響がありました。発生時における想定が甘かったとも反省し、事業継続のための計画についても見直しが必要と感じました。更には、新型コロナウイルス感染症以外の外部環境の変化などは想定出来ていた、確認出来たはずなのに、一向に対処、改善が見られなかったのは大いに反省すべき点であります。「想定の上まで考え、一步先の行動」の必要性を強く感じた一年でありました。

## 法人動向

### 理事会開催状況

| 開催日           | 審議事項   | 出席者数 |    |
|---------------|--|------|----|
|               |  | 理事   | 監事 |
| 令和4年<br>5月21日 | 1 令和3年度事業報告及び令和3年度計算書類等の承認の件<br>2 役員の報酬額及び役員等報酬規程の件<br>3 定時評議員会の招集の件<br>4 リフレッシュ休暇制度規則の臨時的取り扱いの件 | 5名   | 2名 |
| 11月24日        | 1 就業規則、育児・介護休業等に関する規則の改正の件<br>2 感染症対策に係る宿泊施設利用補助規程策定の件<br>3 土地購入計画の件                             | 5名   | 2名 |
| 令和4年<br>3月19日 | 1 令和4年度第一次補正予算の件<br>2 令和5年度事業計画の件<br>3 令和5年度予算の件<br>4 就業規則改定の件                                   | 4名   | 2名 |

### 監事監査

| 開催日           | 監査事項                                       | 出席者数 |
|---------------|--|------|
| 令和4年<br>5月13日 | 1 令和3年度理事の業務の執行について<br>2 令和3年度法人の財産の執行について | 2名   |

## 評議員会開催状況

| 開催日                | 審 議 事 項  | 出席者数 |
|--------------------|--|------|
| 令和 4 年<br>6 月 15 日 | 1 令和 3 年度計算書類・財産目録承認の件<br>2 役員の報酬額及び役員等報酬規程の承認の件 | 8 名  |

## 調査等実施状況

### ◆健康保険及び厚生年金保険被保険者の資格及び報酬等の調査【厚木年金事務所】

実施日：令和 4 年 7 月 13 日

調査日より 2 年前（令和 2 年 7 月）からの賃金台帳、源泉所得税納付書、タイムカードなどを確認。令和 4 年 10 月からの健康保険及び厚生年金保険の適用範囲の拡大などにより、被保険者となる者の確認。

### ◆従業員の健康管理に関する立ち入り調査【厚木労働基準監督署】

実施日：令和 4 年 11 月 16 日

前年度に続き転倒による労働災害が発生してしまった為、転倒災害防止への取組の指導（就業前のストレッチ、靴のチェック他）有り。

衛生委員会の開催について、開催手法についてアドバイスを受ける。

### ◆法人指導監査【厚木市福祉総務課】

実施日：令和 5 年 2 月 28 日

社会福祉法第 56 条第 1 項に基づく一般監査。法人運営関係（定款、定款細則、役員等選任関係書類（名簿、就任承諾書、履歴書）、理事会議事録、評議員会議事録等）を確認。

定款細則における不備の指摘を受ける。

## 所有財産の変動

### ◆土地の購入

職員駐車場として賃借していた物件について、購入させて頂き自己保有とした。

所在地：厚木市小野字公所 738 番 1

契約日：令和 4 年 12 月 26 日

## 事業所申請関係

### ◆令和4年度介護職員処遇改善加算及び特定処遇改善加算（令和4年4月）

事業所（サービス）

介護老人福祉施設玉川グリーンホーム（介護福祉施設）

ユニット型介護老人福祉施設玉川グリーンホーム

（介護福祉施設、短期入所生活介護）

玉川グリーンホーム（通所介護、（介護予防）短期入所生活介護）

小町山グリーンホーム（（介護予防）特定施設入居者生活介護）

以上、神奈川県に申請

高松山グリーンホーム（（介護予防）認知症対応型共同生活介護）

愛甲グリーンホーム（（介護予防）認知症対応型共同生活介護）

玉川グリーンホーム（通所型サービス（総合事業））

以上、厚木市に申請

### ◆令和4年度介護職員等ベースアップ等支援加算（令和4年10月）

事業所（サービス）

介護老人福祉施設玉川グリーンホーム（介護福祉施設）

ユニット型介護老人福祉施設玉川グリーンホーム

（介護福祉施設、短期入所生活介護）

玉川グリーンホーム（通所介護、（介護予防）短期入所生活介護）

小町山グリーンホーム（（介護予防）特定施設入居者生活介護）

以上、神奈川県に申請

高松山グリーンホーム（（介護予防）認知症対応型共同生活介護）

愛甲グリーンホーム（（介護予防）認知症対応型共同生活介護）

玉川グリーンホーム（通所型サービス（総合事業））

以上、厚木市に申請

## 新型コロナウイルス感染症への対応

法人事業所（玉川グリーンホーム）において、三度の集団感染（クラスター）が発生してしまいました。ご利用者の接触者が限られる中では、職員が媒介者となる事が一番懸念されていたが、完全に防止することは出来ませんでした。勿論十二分に注意し、出来る事・やるべき事の徹底を図ってきましたが、どの様な手法もそれだけで完全と言えるものは無く、二重三重に対策を講じておくことの必要性を、改めて痛感しました。

## ●玉川グリーンホーム

### ○介護事業部

#### ◆施設相談課（入所相談担当）

入退所を進めるにあたり、退所者が出た後にスムーズに入所に繋げるよう、早期に事前面接を行い、空床期間を極力少なくするよう努めましたが、新型コロナウイルス感染症対策により、外部施設での面接が思うように進めることができないことや、施設内でも新型コロナウイルス感染が発生し、療養期間中は新規受け入れができない期間があるなどにより、十分な稼働率の確保ができなかったことは、今後も更に検討を要する課題であると思います。法人内の事業所間においては、情報共有を密にすることにより、スムーズな入所へ繋げることができました。また、在宅生活が困難となった特養入所を希望する方に対し、ミドルステイの利用を提案し、新館1階での対応に留まらず、入院者ベッドの活用ができたことは一つ成果となりました。

満床時の面接の進め方については、待機者へ早めにアプローチしましたが、入所までの期間が空き過ぎてしまい、待機者の状態変化や他施設へ入所が決まってしまうケースもあり、今後の課題として取り組む必要があります。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の取り組みなど、ご家族へ連絡をする機会が多く、相談課としてもかなりの時間と労力を費やすこととなりました。予防接種や面会中止・再開の連絡については全て電話にて対応しましたが、今後は電話以外での情報発信、ご家族の意向確認などができないか検討していきたいと思っています。（マメールの活用、ホームページ内に入所者家族宛の掲示板を作成等）

ご家族との情報共有については、内容により他職種と連携することで（相談員・看護師・ケアワーカー）、より詳しい情報を伝えることができました。また、ご家族に伝えた情報や頂いた情報も、セクション間、職員間で共有できるよう取り組みました。

稼働率の目標達成に向け、円滑な入所案内が行えるよう、入所申込者リストの整理のため、入所申込者の現況確認、入所意思の確認について、書面を準備し発送を行いました。入所申込者リストを整理し、より正確な情報や意向を把握することで、ご入所の申込みを頂いた方のご要望に応え、入所検討から入所へ繋げていきたいと思っています。

#### ◆施設介護1～3課（介護担当）

#### ◇本館特養1係

感染予防対策を行いながら、多種職との連携を図り、適切なケアを実施することを

目標に取り組み、ご利用者で感染者が発生することなく経過することができました。今後も感染対策を徹底しながら、外部との関わりを大切にし、面会や四季を感じられるレクリエーションにも力を入れていきたいと思えます。

介護の質については、ご利用者に対して、一部不適切な声掛けとわかれてしまう様な場面が見られました。専門職としての自覚を持って、言葉遣いや立ち振る舞いに責任が持てるように努めていきます。また同一者による転倒や、転落等の事故やヒヤリハットが続くことがありました。その都度、カンファレンスを実施しましたが、その後の評価や改善までは至らなかったケースもありました。職員一人ひとりが、より意識を持って介護方法を見つめ直し、改善へと向けた取り組みを進めていきたいと思えます。

#### ◇本館特養2係

今年度、サービス業としての意識が薄れていると思われる事例があり、職員がご利用者に対し、叱りつける様な言動や、ご利用者の前でケアワーカー同士が口論になるなどの問題点がありました。今一度、サービス業としての意識の向上に努めていかななくてはならないと感じています。

また、新型コロナウイルスのクラスターが発生してしまった事や、看取り対応のご利用者が増えたことで、入院日数も増加が見られました。前年度よりわずかに稼働率を上げる事はできましたが、年間目標の稼働率は達成できませんでした。

今後ご利用者の重度化や、看取り対応の増加も踏まえて、医務課・施設相談課との連携を強化し、ご利用者、ご家族にも安心して最期を迎えられるように取り組み、さらにご利用者の細かな変化に気付き、早期対応による重度化の予防に努めたいと思えます。

#### ◇新館特養1係

職員の異動などに伴い、新たな職員に対して指導する機会が多くありました。時にはOJTが不十分になってしまうことがありましたが、書面にて業務マニュアルを明確にし、指導職員間で連携することで指導にあたりました。ご利用者の支援についての課題に直面した際は、業務の見直し、業務改善に努め、細かな反省点もありますが、一人ひとりが課題に向き合い、力を合わせ苦しい時期を乗り越えられたと思えます。

ご利用者、ご家族との信頼関係の構築のため、ショートステイ送迎時や電話連絡などのコミュニケーションは密にして対応してきましたが、荷物の返却忘れなどが多く出てしまい、ご迷惑をお掛けしてしまいました。持ち物のチェック方法に改善が必要であると反省しています。ご利用者及び、ご家族との信頼関係が築けるよう、このような忘れ物については、ゼロを目指していきたいと思えます。

ベッド稼働率については90%以上を目指しておりましたが、新型コロナウイルス感染症のクラスター発生もあり、達成は出来ませんでした。常に2~3人程度のミド



ルステイ等のニーズにも応え、稼働率の向上を図っております。来年度は、更にミドルステイ等、様々なニーズに対応できるように努め、稼働率 90%以上を目指して行きたいと思いをします。

#### ◇新館特養2係

今年度は、介護過程の展開を重点的に行ってきました。前年度から行っていた情報整理シートをまとめ、各ご利用者に対して個別ケアを行うことで、一人ひとりに意識をしっかりと向けてカンファレンスを行い、各職員の視点から見た課題点や、対応策を考えることが出来ました。また、対応をしていく上で情報の共有、ケアの統一ができ、ご利用者のADLの維持・向上、QOLの向上に繋がり、成果を実感できました。しかし、PDCAサイクルを意識し、継続的にカンファレンスが行っていますが、時に何のためにカンファレンスを実施するのかといった、目的があやふやになってしまったり、情報整理シートの更新、情報整理シートを活かしたカンファレンスが行えていないことがあり、課題と感じております。

介護におけるリスクマネジメントに関しては、各職員のフィジカルアセスメント力に違いがあり、事前の取り組みではなく、問題が起きてからのリスクマネジメント及び、カンファレンスの実施となっていることが多くありました。そんな中でも、介護過程の展開の中で、介護のリスクマネジメントについても検討する機会が作れ、記録を振り返り、傾向を知り、検討するといった流れは掴めてきています。今後もご利用者が安心した生活が送れるように、各自のフィジカルアセスメント力を高め、介護のリスクマネジメントに取り組んで行きたいと思いをします。

#### ◇ユニット特養1係

職員間の連携では、互いに配慮をし、時にはリーダーを介してアサーションを実践して、意見交換をしながらケアに繋げる事ができました。新型コロナウイルス感染予防への配慮もあり、セクションイベントは年1回の実施に留まってしまったことは、課題と感じています。今後も感染対応に努めながら、どれだけ楽しみを提供できるか検討していきたいと思いをしています。

ご家族との情報共有では、定期的に、日頃の様子をご家族宛に写真にメッセージを添えてお伝えする事ができました。

ご利用者の重度化に伴い、業務を日々調整し、検討を重ね、年度末にはセクションを超えて本館特養と連携し、合同で入浴業務を行うよう、業務マニュアルの改善を行いました。今後もご利用者の重度化も考慮しながら、必要に応じて業務の見直しを図り、現状のやり方や決め事にこだわらず、状況に応じて柔軟に対応できるように努めていきたいと思いをします。

#### ◇ユニット特養2係

ご利用者の重度化に伴い、入浴に際して特殊浴槽を使用する方が増えましたが、ユ

ニット特養 1 係や本館特養などの他セクションと協力することで、スムーズなケアに繋げることができました。職員の身体的・精神的負担が大きくなっている現状ではありますが、今後も他セクションとの連携を強化し、継続してより良いケアが提供できるように努めていきたいと思ひます。

担当フロアにおいては、幸い新型コロナウイルス感染症のクラスター発生もなく、穏やかな生活が提供できたと思ひます。しかし、コロナ禍での感染対策の一環としての面会制限もあり、ご家族とのコミュニケーションを図る機会が減少してしまつたと感じています。その反面、ご家族への電話連絡という形ではありますが、日々の様子を伝える機会が増えました。今後もこのような機会を作るように取り組んでいきたいと思ひます。

褥瘡や白癬といった皮膚トラブルが多く見受けられました。日々のケアを見直し、職員の観察力(気づく力)向上に努めていくことで、現在は皮膚トラブルなどの減少に繋げることができています。今後も継続し、個々の意識レベルの向上に努めてまいります。

## ◆在宅介護課

### ◇居宅介護支援係（ケアマネジャー）

公正中立で質の高いケアマネジメントの実施を目指して、特定事業所加算Ⅲの取得に取り組みました。

内部研修・外部研修の研修計画を作成、地域包括支援センター等が実施する事例検討会等への参加の調整。介護支援専門員実務研修における科目「ケアマネジメントの基礎技術に関する実習」等に協力又は協力体制の確保の有無について、神奈川県が実施するアンケートに回答することにより、特定事業所加算Ⅲの取得準備が整い厚木市に申請を行い、1月より特定事業所加算Ⅲの算定が可能となりました。今年度は期中の取得であるため、サービス区分におけるマイナス決算は解消し切れませんが、次年度以降は増収分により単体での黒字化を目指して参ります。

今後も特定事業所加算Ⅲの算定を続けるため、年間研修計画を作成し、週1回事業所内会議・研修の開催、外部研修の参加、他居宅介護支援事業所との合同研修会・事例検討会の開催を行い、公正中立で質の高いケアマネジメントの実施に繋げます。

地域包括ケア社会の実現に向け、支援の充実を図る点につきましては、必要に応じて、多様な主体により提供される利用者の日常生活全般を支援するサービスが包括的に提供されるような居宅サービス計画を作成できるよう、ケアプランにインフォーマルサービスも記載し、包括的な居宅サービス計画を作成しました。

今後も柔軟な対応により、ご利用者が住み慣れた地域での生活を継続できるよう努めます。

## ◇通所介護係（デイサービス）

ご利用者に安心して、そして気持ちよく過ごしていただけるよう、全職員が笑顔で丁寧に対応することに努めました。また、ご利用者同士のコミュニケーションの場として空間提供や生活の中に楽しみができるようレクリエーションやクラブ活動の充実に取り組み、実施できたと感じております。

介護面では、職員間の情報共有が不十分なことや各職員の技術的な面での不安により、ご利用者への関わりが消極的になってしまうことが散見されました。職員間での報告・連絡・相談を密にしながら、研修などを通じ、各職員が専門職として知識や技術の向上できるようセクション全体で取り組み、介助の質を高められるよう努めていきたいと思っております。

新型コロナウイルス感染症のクラスターの影響もあり、稼働率の低下が見られてしまいました。今後も感染症の予防に努めながら、安定した稼働率を目指してまいります。

## ○総務部

### ◆総務課

令和4年度は新型コロナウイルスの感染拡大状況がなかなか収束せず、介護施設としては厳しい状況が続き、抗原検査を職員に対して定期的に行い、また不織布以上のマスク着用や消毒の徹底にも努めましたが、クラスター発生を防ぐことは出来ませんでした。クラスター発生時には衛生用品など事前に用意していたものや神奈川県から支給を受けた衛生用品のほか、現場の意見で急遽用意した物などがありましたが、何とか乗り切ることが出来ました。また、前年度に引き続き車輛の適正台数の見直しを行い、車検満了のタイミング等で廃車も行い台数削減を実施しました。

一方で設備・備品等についても経年劣化が著しく、新館1階の洗濯機やユニット2階の乾燥機の入れ替え等を行い、他にも様々な突発修理が発生しましたが、早急な対応に努めました。日頃よりご利用者のサービス提供に支障がでないよう、現場職員にも不具合を早期発見し報告するよう周知し、また誤った使用方法での故障がでないように注意喚起するなど管理面の徹底に努めました。

令和4年度は様々な物資や光熱費の高騰で財政面では厳しい社会環境となりましたが、毎月の運営会議にて光熱費の状況報告を行い、節電・節水等の協力を呼びかけ、国や神奈川県・厚木市からの補助金や支援金の申請を行うなど対策にも努めました。

また、職員の健康管理推進の為、希望者には厨房で調理した栄養バランスの良いお弁当を安価で提供するなど、働きやすい環境作りにも努めました。

令和4年度末には産休・育休で休職中の職員が3名おり、年度途中では男性職員1名が出生時育児休業（産後パパ育休）を取得し、休職中の現場の職員体制のフォローが課題となりました。

法人の窓口としては、ご利用者やご家族はもとより、来訪者の方等に不快な思いをさせないように意識して親切な対応を心掛け、適切に対応いたしました。

#### ◆栄養課

栄養課では今年度、職員の体調不良による入院や長期療養、中途退職などがあり、小町山グリーンホームからの応援を得る事となりました。社会人としての健康管理にはこれからも十分注意し、個々の自覚をもって取り組んでいきたいと思えます。

イベント食も思うように出来ませんでした。毎月の誕生会や祝日、恒例のかき氷イベント、11月には秋の味覚弁当を行ない、みなさん喜んで頂きました。クリスマス、お正月の祝い膳も好評でした。また法人内それぞれの事業所の開所記念日には、職員への昼食の提供などで栄養課も協力させて頂きました。

施設内で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した時は衛生管理上、食器は使用せず、使い捨て弁当で対応し、食事が摂れない人には栄養補助食品で対応したのが良かったと思えました。使い捨て弁当箱や紙、おしぼり、紙コップ、割りばし、使い捨てスプーンは常時在庫している事が大事な事も学び、各種感染症の発生時のみならず、事業継続の観点からも今後の参考にしてまいります。

#### ◆医務課

入所者の異常の早期発見・早期対応に努め、嘱託医である厚木佐藤病院と連携し健康管理を、また治療の継続として服薬管理や処置を行って来ました。介護職員が安心して業務に取り組むことができるよう、円滑なコミュニケーションと関係づくりに努め、入所者の情報交換や援助方法の指導を行い、異常の早期発見や早期治療につなげることが出来たので今後も継続していきたい。

終末期医療への対応として、入所者の状態と今後の見通しなどを細やかに家族や介護職員に情報提供に努めるとともに、嘱託医の見解を踏まえ入所者がより良い最期を迎えられるよう調整して来ました。今年度は37件の退所（療養型病院への移行を含む）の中24件の施設内看取り（60.0%）を行い、ご家族や介護職員と共に穏やかなお見送りを行うことが出来ました。

今年度は例年行っているインフルエンザワクチン接種、肺炎球菌ワクチン接種に加え新型コロナ肺炎ワクチンの2回の追加接種を行いました。新型コロナウイルス感染症では3回のクラスター発生となり、ご利用者をはじめ介護職員への治療と助言を行って来ました。

今後も新型コロナウイルス感染症をはじめ、インフルエンザ、疥癬、ノロウイルス感染症の発症の可能性は常に想定されるため、予防としてのスタンダードプリコーションの徹底、感染時の対応等、状況に応じ医療面での対応を柔軟に行っていきたいと

思います。

### ●高松山グリーンホーム（認知症対応型共同生活介護（グループホーム））

コロナ禍で制限のある中、四季に応じたイベントを予定通り実施し、ご利用者にも喜んで頂けました。歩行不安定な方が多く、転倒・転落事故が多く発生しました。介護事故 33 件（内訳として転倒・転落 29 件、打撲 1 件、与薬忘れ 1 件、剥離 1 件、窒息・誤嚥 1 件）ありました。予防策についてはカンファレンスを行い再発防止に努め、特にヒューマンエラーについては徹底して再発防止に努めてまいります。一方、ヒヤリハット 8 件と他事業所と比べ極端に少ないため、ヒヤリハットの意義を理解し事故防止への意識を高め取り組んでいきたいと思ひます。

今年度は入院者 5 名、延べ 160 日の入院がありました。コロナ禍によりご利用者と職員の体調管理並びに感染症対策を徹底しました。職員の感染はありましたが、ご利用者への感染はありませんでした。引き続き「感染しない、感染させない」ように予防対策を徹底してまいります。

一部職員の言動により相手を萎縮させたり、関係性を悪化させたりすることがありました。一つ間違えると虐待にも発展しかねないという事を職員一人ひとりが自覚し、お互いに注意し合える環境づくりが出来るようになればと思ひます。

日常生活動作確認表の取り組みやご利用者個々の食事形態・排泄状況等の見直しを行い個別ケアの充実を図りました。今年度より始めた介護過程への取り組みはまだまだ不十分であるため一つ一つ着実に進め、その結果が認知症ケアやご利用者本位のケアに繋がればと思ひます。

コロナ禍ではあっても、出来る限りの地域行事に参加し、地域との係わりや地域包括支援センターとも連絡を取り合い、地域にある施設として貢献できるように努めています。

ここ数年、加齢や認知症の進行、身体機能の低下・重度化等の理由によりご利用者の入居期間が短くなってきています。入居期間が短くなることで新規ご利用者を確保する間もなく、ご利用者を探し受け入れるという状況が続いています。

年間稼働率は 95.23%と辛うじて目標値を達成することが出来ました。退居から入居までの期間と入院者と入院期間を短くすることが稼働率アップに繋がると思ひます。特別養護老人ホームのあるグループホームという利点（次の施設を探さなくて良い）を PR して新規ご利用者の確保とスムーズにご利用者の受け入れが出来ればと思ひます。

## ●愛甲グリーンホーム（認知症対応型共同生活介護（グループホーム））

新型コロナウイルスの発生予防、拡大防止対策に取り組み、感染者ゼロで過ごすことができました。今後も標準予防策（スタンダードプリコーション）を徹底し、他の感染予防対策にも講じて参ります。

実績に関しましては、どうにか目標値に届くことができました。しかし、余裕のある待機者確保ができず、空室のご案内がスムーズでなかったと感じます。待機者確保については今後も課題といえます。

ホスピタリティとチームケアの実践を目標に掲げました。心遣い、気遣い、おもてなしの気持ちでケアを実践し、季節の催しなども積極的に取り組んで参りました。しかし、言葉遣いなど当たり前に出ることが不十分で、利用者との間に馴れ馴れしさが目立ったと感じています。そのことを反省し、品格の向上、すべてにおいて丁寧に取り組んで参ります。

施設内の事故報告は13件と昨年度より23件減少することができました。内訳としまして、転倒・転落事故が9件、外傷の発見3件、爪切りによる事故が1件でした。爪切りに関しては職員によるヒューマンエラーが原因であり、きちんと対策し再発防止に努めなければなりません。事故が23件減少できた要因としまして、ヒヤリハット報告を多く挙げたことにより職員間でリスクマネジメントを共有でき、事故防止への意識が高めることができたと感じております。今後も利用者の安心・安全に繋がるケアを継続して参ります。

地域交流としまして、3年ぶりに東名中学の職場体験学習の受け入れをいたしました。コロナ禍で自粛していた中、久しぶりの生徒との交流に利用者も大変喜ばれました。生徒のみなさんからも良い体験ができたとお礼状もいただき、私たちも学習に携わることができ大変嬉しく思いました。今後も地域の方たちとの関わりを大切にしていきたいと思っております。

## ●小町山グリーンホーム

### （サービス付き高齢者向け住宅（特定施設入居者生活介護））

疾患や加齢が要因でご利用者の重度化が増加傾向にあり、転倒による怪我や認知症の進行により日常生活動作（ADL）に変化が起きている方には、区分変更申請を勧め、要介護3以上の介護認定の方は最善の生活場所について相談に努めましたが、次の移行先が決まる前に入院に至ることが多く治療期間が長期間となり、退院されても生活改善は望めず退所されることが多くありました。

施設内の行事はほぼ計画通り実施されて、新しい取り組みとしては秋の作品展示や書道教室の開催は、施設内の活動の充実が図れ、ご利用者の満足につながりました。

また、食事サービスの向上として10回のイベント食を提供して喜んでいただきました。

職員は支援する立場をわきまえた行動が各自行えていましたが、言葉遣いに関しては意識感覚に個人差もあり、次年度においても引き続き努力してまいります。

## ●厚木市玉川・森の里地域包括支援センター

玉川・森の里地域は、高齢化率が市内で1・2位と高く、必然的に認知症高齢者も増加する傾向が推測されることから、「地域ぐるみで認知症高齢者を見守り支え合う意識の向上や環境整備に取り組む」ことを目標に掲げ、その一環として、玉川地区、森の里地区の地域福祉推進委員会と共同して「認知症サポーター養成講座」を開催し、多くの出席をいただきました。引き続き、ステップアップ講座や啓発活動等を企画し、地域住民の見守り支え合う意識の向上をはかります。

また、急激に高齢化が進んでいる地域であることから、健康意識や自己管理能力を高める取り組みとして、国保年金課と共同して11月よりフレイル予防教室を開催しています。今後も月1回で開催を継続し、健康寿命を延ばして健康で自立した生活を過ごすための栄養・運動・社会参加の活動を行います。

令和4年度の新規相談185件の内訳では、森の里地区が128件69.2%と依然高く、玉川地区50件27.1%(七沢21件、小野2件、岡津古久27件)でした。

相談内容では、近年の相談で増加傾向にある認知症相談は全体の4.7%、癌の相談は4.0%でした。ケアプラン件数(要支援・事業対象者の方の介護保険サービス利用人数)は、令和元年は月平均85.2件でしたが、以降増加傾向が続き、令和4年度は月平均105.8件まで増加しています。

これらのデータや課題は「玉川・森の里見守り支え合い会議」等でも引き続き議題として地域の方にもご意見をいただきながら、地域ぐるみで事業の展開・環境整備を目指します。

より地域に寄り添った活動を展開し、求められる『地域包括ケア社会』の中核機関としての機能が十分に発揮できるよう、さらに邁進して参ります。

## ●地域貢献事業等

### ○配食サービス(安否確認を目的とした配食事業)

栄養バランスのとれたお弁当を届けると共に、コミュニケーションを図り安否確認を行いました。実施数としては決して多くはありませんが、生命維持の基本である食の部分を支える一助として活動しています。

## ●委員会活動

### ○育成委員会

今年度は口腔ケアと看取りに関する研修会を実施いたしました。

口腔内の清潔を保つための手段、手法を学ぶことで、病気の発症リスクを下げ、QOLの向上を目指すために口腔ケアに関する研修を行いました。

看取りに関する研修では、ご利用者の高齢化・重度化に伴い、特別養護老人ホームの約半数のご利用者の方が看取り対応となっており、看取りに関わる職員も、関わる事が少ない職種の職員もいる中で、改めて、施設で行われている看取りの流れを学び、理解をしていただき、今後のご利用者への向き合い方に活かしてもらいたく研修を行いました。

今年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点より、研修動画での研修会を試みました。

#### 1. 研修会開催

| 開催日                      | テーマ        | 講師          | 参加人数 |
|--------------------------|------------|-------------|------|
| R4. 11. 1<br>～R4. 11. 30 | 口腔ケアに関する研修 | 委員会<br>メンバー | 155名 |
| R5. 1. 9<br>～R5. 1. 31   | 看取り介護について  | 委員会<br>メンバー | 165名 |

### ○介護技術向上委員会

今年度の当委員会は、認知症・褥瘡・吸引の研修を行いました。研修は本来であれば、対面式での実技講習を理想としておりますが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、資料の配布、動画視聴、アンケート提出という形へ変更して実施しました。次年度に向け、毎年行う研修は固定動画としフォルダにまとめて各セクションで取り纏めてもらう等、簡略化することで委員会に求められている内容や、前回のアンケート結果を反映するなど、委員会独自の研修が実施できると考えています。



## 1. 研修会開催

| 開催日                      | テーマ         | 担当           | 参加人数 |
|--------------------------|-------------|--------------|------|
| R4. 11. 1<br>～R4. 11. 20 | 認知症ケア       | 原、大谷         | 148名 |
| R4. 12. 5<br>～R4. 12. 19 | 褥瘡の予防と早期発見  | 田中、高橋        | 135名 |
| R5. 2. 1<br>～R5. 2. 28   | 医療的ケア【喀痰吸引】 | 田中、大道、<br>藤井 | 125名 |

## ○サービス向上委員会

当委員会では、各サービスについての苦情・相談に対し、法人が定める苦情解決事業実施要綱に準じ適切な対応に努めてきました。今年度は2件の苦情・相談を受けました。職員の不適切な対応に対してと、利用料誤請求についてでありました。職員一人ひとりが普段行っているサービスについて、改めて振り返り改善に努めていかなくてはならないと感じています。

サービス向上に向けた取り組みとして、11月に法人の全職員を対象に「介護現場におけるハラスメントに関する職員研修」を行いました。ハラスメントについて学び、職員間での情報共有、対応方法についても検討していく必要があると感じています。

また、職員間の良好な関係作りが図れるような仕組みや環境を整備し、サービス向上に努めていきたいと感じています。

2月には、「倫理及び法令遵守に関わる研修」を行いました。委員会で作成した資料をもとに、法人の倫理規程を改めて確認していただきました。今後も、サービス向上が図れるよう、自身を定期的に振り返えられる機会の提供や注意喚起、そして各セクションで、サービス向上に繋がられる具体的な取り組みが実施できるよう促していきたいと思っています。

### 1. 苦情・相談受付件数

|                               |    |       |
|-------------------------------|----|-------|
| 玉川グリーンホーム 新館特養1係<br>(ショートステイ) | 1件 |       |
| 小町山グリーンホーム                    | 1件 | 合計 2件 |
| 要望書(レクリエーションについて)             | 1件 |       |

### 2. 苦情相談外部委員会の開催

(感染予防のため苦情・相談内容を外部委員2名へ送付しご意見をいただく。)

第1回苦情相談全体委員会 令和4年10月 (上半期)

第2回苦情相談全体委員会 令和5年3月 (下半期)

### 3. 研修会開催

| 開催日                       | テーマ                      | 講師          | 参加人数  |
|---------------------------|--------------------------|-------------|-------|
| R4. 11. 10<br>～R4. 11. 25 | 介護現場におけるハラスメントに<br>関する研修 | 委員会<br>メンバー | 155 名 |
| R5. 2. 1<br>～R5. 2. 15    | 倫理及び法令遵守に関わる研修           | 委員会<br>メンバー | 154 名 |

### 4. 厚木市介護相談員来所回数 新型コロナウイルス感染症予防のため来所中止

#### ○事故防止検討委員会

今年度の事故の行政報告では転倒による骨折や打撲、また薬の事故も多くありました。委員会の活動では四半期毎に各セクションの事故・ヒヤリハットの集計と経過報告を行いました。年度の後半では現場で事故、ヒヤリハットの区分けについて、より明確にして統一する必要性が課題として挙げられ、次年度に引き続き委員会として形にしていく事としています。

研修においては新型コロナウイルス感染対策として集団研修を避け、動画を主として各現場で実施しました。研修内容として「事故発生など緊急時に関する研修」と「リスクマネジメントと危険予知」について行い、リスクマネジメントの必要性を再度認識しました。次年度も引き続き取り組んでまいります。

#### 1. 研修会開催

| 開催日                      | テーマ             | 講師          | 参加人数  |
|--------------------------|-----------------|-------------|-------|
| R4. 10. 1<br>～R4. 10. 20 | 事故発生など緊急時に関する研修 | 委員会<br>メンバー | 171 名 |
| R5. 1. 1<br>～R5. 1. 20   | リスクマネジメントと危険予知  | 委員会<br>メンバー | 172 名 |

#### ○拘束廃止・虐待予防実践委員会

今年度より発足した当委員会は、拘束に関しては拘束・事故防止検討委員会より、虐待に関しては育成委員会より引き継ぎました。活動として高齢者虐待防止・身体拘束廃止に係る研修会を 2 回実施し、例年実施している虐待防止に係る一斉点検及び虐待防止に係る一斉点検の振り返り研修を実施いたしました。研修については来年度以降も行っていくようシリーズ化していく方針です。

次年度に向け、身体的拘束等の適正化のための指針の見直し・検討、身体拘束等の廃止に関する取り組み（マニュアルやフローチャートの作成）を進め、適切な知識や

情報の共有に努め、ご利用者の安心・安全につながるよう努めてまいります。

## 1. 研修会開催

| 開催日                      | テーマ  | 実施内容                 | 参加人数 |
|--------------------------|--|----------------------|------|
| R4. 8. 1<br>～R4. 8. 21   | 高齢者虐待防止・身体拘束廃止研修<br>かながわ高齢協「会員向け研修動画」              | 動画視聴・アンケート           | 176名 |
| R4. 12. 26<br>～R5. 1. 15 | 高齢者施設における虐待防止に係る<br>一斉点検                           | 自己点検シート<br>(チェックリスト) | 156名 |
| R5. 1. 1<br>～R5. 1. 22   | 身体拘束及び虐待防止研修「よりよい<br>介護をめざして」<br>～不適切なケアを考える（食事編）～ | 動画視聴・アンケート           | 172名 |
| R5. 3. 1<br>～R5. 3. 19   | 高齢者施設における虐待防止に<br>係る一斉点検の振り返り研修                    | アンケート形式              | 165名 |

## 2. 身体的拘束適正化検討委員会

第1回 令和4年 4月26日

第2回 令和4年 7月19日

第3回 令和4年 10月19日

第4回 令和5年 1月18日

各事業所における身体的拘束について現況を確認・情報を共有しています。現状では身体拘束は行なっておりませんが、言葉遣いや態度が不適切ではないかと思われる事例もあり、法人全体での課題と捉え改善に向けて取り組んでまいります。

## ○ICT推進委員会

ICT推進委員会では、昨年より引き続きハイブリッド会議（オンラインと参集）を行いました。コロナ禍における感染防止対策と共に、今後の新たな会議の形式として定着を図ることができれば、法人全体のICTの推進に役立つと考えます。

機関誌「清琉」作成においては、一昨年度より印刷通販業者を活用し、大幅なコストダウンに繋げております。

今年度の研修会は、入所者・利用者が安心して利用できる施設となるよう、各事業所・各セクションにおいて、プライバシー保護への取り組みについて確認をするため、法人内全職員対象に動画を視聴し、各自にて個人情報保護・プライバシー保護に関する設問に答え、アンケートを提出していただきました。全職員がプライバシー保護のための気づきを得る一つの機会になったと感じられました。

## 1. 研修会開催

| 開催日                    | テーマ  | 講師          | 参加人数 |
|------------------------|--|-------------|------|
| R5. 1. 4<br>～R5. 1. 25 | 「入所者・利用者のプライバシー保護への<br>取り組みについて」<br>～プライバシー保護のための気づきを得る～ | 委員会<br>メンバー | 157名 |

## 2. 機関誌「清琉」制作

第69号 令和4年10月31日発行

第70号 令和5年3月31日発行

## 3. ホームページの月間予定等お知らせ、ブログの管理・更新

### ○環境衛生委員会

令和4年度は3回の研修と2回の訓練を行いました。特に新型コロナウイルス感染症を始めとする、様々な感染症の予防と発生時の対策について学ぶことは急務とされました。

職員間における感染対策のため、各セクション単位の研修や動画による研修となりましたが、各セクションで開催する事により多くの職員が参加することができ、感染対策への意識・技術の向上につながったと思われまます。

前述のように、新型コロナウイルス感染症をはじめ、様々な感染症の拡大が懸念される昨今、更なる感染対策とその徹底が必要とされています。また、労働衛生安全法に基づく衛生委員の役割として、労働災害や健康管理を啓発する活動についても、引き続き取り組んでまいります。

## 1. 研修会開催

| 開催日                      | テーマ           | 講師          | 参加人数 |
|--------------------------|---------------|-------------|------|
| R4. 9. 8<br>～R4. 9. 30   | 高齢者施設における食品衛生 | 委員会<br>メンバー | 166名 |
| R4. 10. 6<br>～R4. 10. 31 | 高齢者施設職員の健康管理  | 委員会<br>メンバー | 159名 |
| R5. 1. 13<br>～R5. 2. 13  | ゾーニングの考え方     | 委員会<br>メンバー | 85名  |
| R5. 3. 3<br>～R5. 3. 31   | 感染症BCPについて    | 委員会<br>メンバー | 132名 |

## 2. 訓練実施

| 開催日                      | テーマ       | 講師          | 参加人数 |
|--------------------------|-----------|-------------|------|
| R4. 11. 11<br>～R4. 12. 3 | 嘔吐時の処理    | 委員会<br>メンバー | 129名 |
| R5. 1. 13<br>～R5. 2. 13  | ゾーニングの考え方 | 委員会<br>メンバー | 85名  |

### ○防災対策委員会

玉川グリーンホーム、高松山グリーンホーム、愛甲グリーンホーム、小町山グリーンホームにて各事業所の立地条件により起こりうる災害を想定した訓練を行いました。各事業所での防災訓練では、繰り返し訓練を重ねてきた結果、訓練内容の質、職員の訓練に取り組む意識が向上していると感じています。

今年度は非常災害時に必要な照明器具について検討し、事業所ごとに照明器具を購入することができた。普段から使用し、有事の際に備えるよう指導しました。

研修会では昨年同様に業務継続計画（BCP）について研修を開催しました。職員全体でBCPについて考える機会となった。またハザードマップを使用し災害発生時に通勤経路がどのような状況になるか、職員一人ひとりが確認し、初めてハザードマップを見た、通勤経路が水没するので別ルートを検討する必要がある等、災害時対応の啓発に繋がりました。

今後も施設職員が防災に触れる機会、防災について考える機会を提供し、法人全体で防災意識が高められるよう取り組んでいきたいと思っております。

#### 1. 研修会開催

| 開催日                      | テーマ                                     | 講師          | 参加人数 |
|--------------------------|---|-------------|------|
| R4. 11. 1<br>～R4. 11. 20 | 業務継続計画（BCP）について<br>～ハザードマップを使った通勤経路の確認～ | 委員会<br>メンバー | 167名 |